

2. アクティブ・ラーニングアンケートの結果報告

令和2年度依頼文

授業担当教員 各位

アクティブ・ラーニングプロジェクト代表

飯 島 康 之

伊 東 正 人

アクティブ・ラーニングの授業アンケート調査について（お願い）

第3期中期目標・中期計画における本学の重点目標の一つは、大学教育を通じてアクティブ・ラーニング（以下、AL）の学びを積んだ学生が、学校現場で能動的学修方法を展開できるようになることとしています。このことを全学的に取り組むために、ALを取り入れた授業を学部課程、大学院課程ともに全開講授業の6割以上で導入することを目標としています。

「「主体的・協働的な学び」を実践できる教員の養成」であるアクティブ・ラーニングプロジェクトでは、2012年に文部科学省が定義したALや先進校の事例を参考にしながら、教員養成大学としてのALについて検討してきました。そこで、本学ならでは4つの視点から目指すALを考え、平成29年3月29日開催のFD集会で『本学が4つの視点から目指すAL』として提案し、参加者からの意見等を集約しました。

本プロジェクトでは、本学が目指すALを含んだ**令和2年度開講授業**の開講数と実施教員数の現状調査をするためにアンケートを実施します。アンケート調査の結果から、本学でのAL授業の現状、ALを導入するまでの課題を整理し、本プロジェクト遂行に向けた材料にいたします。

つきましては、アンケートについて下記の要領で実施いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いします。

【アンケート調査主体】教職キャリアセンター・アクティブ・ラーニングプロジェクト

【アンケート対象者】令和2年度に愛知教育大学で授業を担当している全教員（非常勤講師を含む）

※担当授業が前期のみの非常勤講師は、9月30日を期限に先に実施済みのため除く。

【アンケート調査の回答方法】

■常勤教員：令和3年2月19日（金）開催の教授会にて実施・回収する。

■非常勤講師：学務ネットを通じて依頼する。

学務ネットにログイン後、「アンケート回答」よりご回答ください。

注）一時保存の機能はございません。また一度回答いただきますと修正はできません。（学務ネットにIDの登録のない授業担当教員には郵送にて依頼する。）

【アンケート回答期限】2021年3月31日（水）（非常勤講師）

【本件に関する照会先】

（アンケート内容）理科教育講座 伊東正人 内線2621

（事務的内容）教務企画課 教職キャリアセンター支援係 古川・佐藤・吉田 内線2717

（メールアドレス）alpj-staff@m.auecc.aichi-edu.ac.jp

配付したアンケート用紙

アクティブ・ラーニングについての授業アンケート調査

所 属 _____

氏 名 _____

※
《事務記入欄》

注意事項

○を塗りつぶすときは、○枠をきちんとマークして下さい。

※黒色のえんぴつ、または黒色ボールペン、黒色サインペンでご回答ください。本回答用紙は、機械で読み取ります。

丁寧にご記入ください。

《マークの仕方》

(良い例)

(悪い例)

●

○

△

×

△

□

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

△

問5 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態があれば教えてください。○を塗りつぶしてください。（複数回答可）

- 電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業
- e-learningシステムを活用した授業
- ICT機器の効果的活用をした授業
- その他（以下に記入）

問6 AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか。〈自由記述〉

【大学院】

問7 担当している全授業科目（大学院）の中で、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？※同一名称の授業科目（または同内容の授業科目）を複数受け持つ場合は、それぞれを1としてカウントしてください。

（1）担当する全授業科目数（大学院）を教えてください。

--	--

科目

（2）（1）の中で、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？

--	--

科目

問8 同一科目の全授業回数（16回）の内、上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？○を塗りつぶしてください。※科目により回数が異なる場合、最大の平均回数を回答してください。

- 1, 2回
- 3～8回
- 9回以上

問9 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態があれば教えてください。○を塗りつぶしてください。（複数回答可）

- 学生参加型授業（クリッカー、感想・質問カードの使用など）
- 学生の共同授業（グループワーク、グループディスカッションなど）
- 教員や学生が問題設定をし解決する
- 野外実習、体験実習、調査学習など
- その他（以下に記入）

問10 上記4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態があれば教えてください。○を塗りつぶしてください。（複数回答可）

- 電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業
- e-learningシステムを活用した授業
- ICT機器の効果的活用をした授業
- その他（以下に記入）

問11 AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか。〈自由記述〉

ご協力ありがとうございました。（教授会終了後、出口設置の回収BOXに提出をお願いします。）

アクティブ・ラーニングについてのアンケート集計表

令和2年度

アンケート回収率

区分 アンケート回収率	教育科学系			人文社会科学系			自然科学系			創造科学系			合計				
	教員		非常勤 (前期)	教員		非常勤 (通年・後期)	教員		非常勤 (前期)	教員		非常勤 (通年・後期)	教員		非常勤 (前期)		
	配布枚数	68	48	78	39	12	63	53	6	15	42	23	56	202	89	212	503
回収枚数	58	4	34	31	0	31	42	0	4	36	0	19	167	4	88	259	
%	85.3%	8.3%	43.6%	79.5%	0.0%	49.2%	79.2%	0.0%	27%	85.7%	0.0%	33.9%	82.7%	4.5%	41.5%	51.5%	
		49.5%			54.4%			62.2%			45.5%						

アンケート結果**アクティブラーニングについてのアンケート集計表**

科目名称：全学系

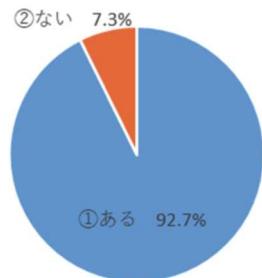
問1 担当している全科目(学部と大学院)に、4つの視点のうち少なくとも1つを含むALの授業はありますか？	選択肢	①ある	②ない	①あると答えた240人のうち		
	%	92.7%	7.3%	学部授業について回答した先生		
	回答数	240	19	大学院授業について回答した先生		
【学部】「ある」と回答された方						
問2 担当している全科目の中で、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？	選択肢	学部AL導入				
	%	74.1%				
	回答数	1150/1553				
問3 同一科目の全授業回数(16回)の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？	選択肢	①1.2回	②3~8回	③9回以上		
	%	8.2%	50.4%	40.5%		
	回答数	19	117	94		
問4 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。 (複数回答可)	選択肢	①学生参加型授業	②学生の共同授業	③教員や学生が問題設定をし解決する	④野外実習、体験実習、調査学習	⑤その他
	回答数	121	151	144	86	9
	選択肢	①電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業	②e-learningシステムを活用した授業	③ICT機器の効果的活用をした授業	④その他	
問5 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態を教えてください。 (複数回答可)						
回答数	13	70	97	8		
問6 AL授業(遠隔授業)でどのような工夫をされましたか。 <自由記述>	別紙に記載されています					

令和3年 4月5現在
令和3年 2月～3月実施分
回答数： 259

【大学院】 「ある」と回答された方						
問7 担当している全科目の中で、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？	選択肢 大学院 AL導入					
		%	85.7%			
		回答数	407/475			
問8 同一科目の全授業回数(16回)の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？	選択肢 ①1,2回 ②3～8回 ③9回以上 ④無回答	①1,2回	②3～8回	③9回以上	④無回答	
		%	7.8%	26.3%	23.3%	
		回答数	18	61	54	
問9 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。 (複数回答可)	選択肢 ①学生参加型授業 ②学生の共同授業 ③教員や学生が問題設定をし解決する ④野外実習、体験実習、調査学習 ⑤その他	①学生参加型授業	②学生の共同授業	③教員や学生が問題設定をし解決する	④野外実習、体験実習、調査学習	
		回答数	56	91	91	
					39	2
問10 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態を教えてください。 (複数回答可)	選択肢 ①電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業 ②e-learningシステムを活用した授業 ③ICT機器の効果的活用をした授業 ④その他	①電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業	②e-learningシステムを活用した授業	③ICT機器の効果的活用をした授業	④その他	
		回答数	9	41	54	
					4	
問11 AL授業(遠隔授業)でどのような工夫をされましたか。 <自由記述>	別紙に記載されています					

問1 担当している全科目（学部と大学院）に、ALの要素を含む授業はありますか？

問1 担当している全科目（学部と大学院）に、ALの要素を含む授業はありますか？

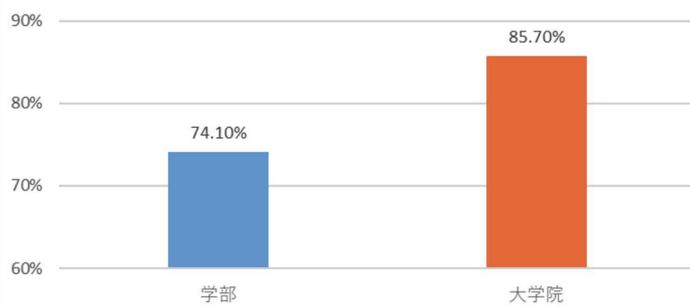


選択肢	%	回答数
①ある	92.7%	240
②ない	7.3%	19

問1で、「ある」と回答された方

問2, 7 担当している全科目（学部と大学院）の中で、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業科目はいくつありますか？

問2 担当している全科目に、AL要素を取り入れた授業科目はいくつありますか？

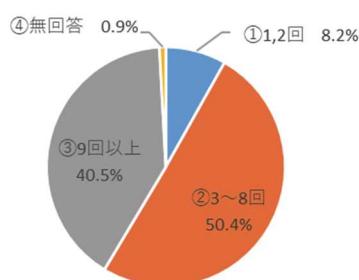


選択肢	%	回答数
学部 AL導入	74.1%	1150/1553
大学院 AL導入	85.7%	407/475

問3～問6 学部授業についての質問

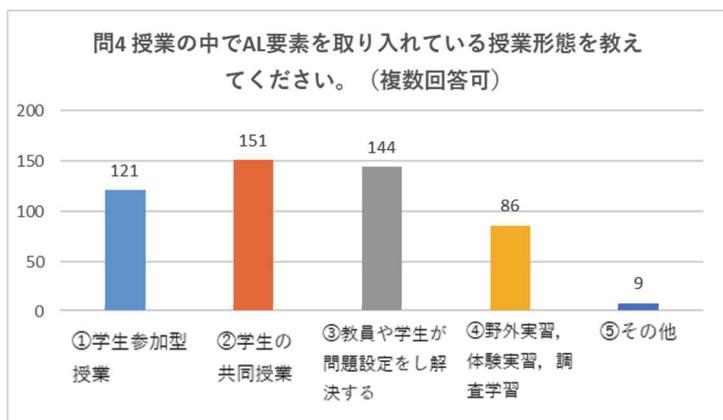
問3 同一科目の全授業回数（16回）の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？

問3 担当している全科目の中で、ALの要素を取り入れた授業の平均回数は？



選択肢	%	回答数
①1,2回	8.2%	19
②3～8回	50.4%	117
③9回以上	40.5%	94
④無回答	0.9%	2

問4 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。(複数回答可)

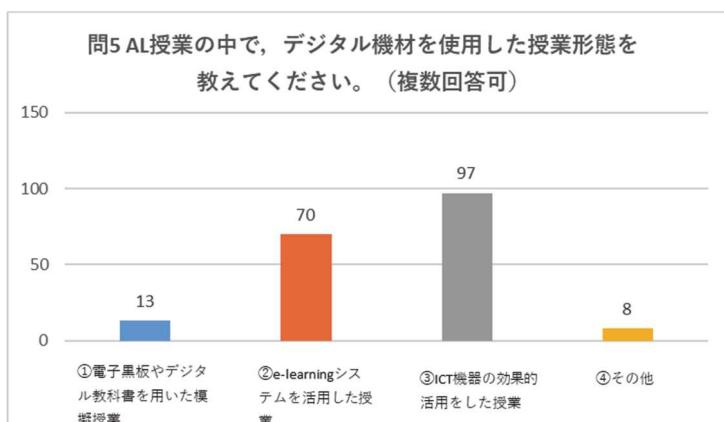


選択肢	回答数
①学生参加型授業	121
②学生の共同授業	151
③教員や学生が問題設定をし解決する	144
④野外実習、体験実習、調査学習	86
⑤その他	9

問4 ⑤その他

- ・受講者が共有しておきたい最低限のテキストを紙媒体（新書レベルの入門書など）を受講前、あるいは受講後の早いうちに通読しておき、授業内で質疑応答や、各自が「課題」だと認識したポイント（テーマ）を提示する。そして、それをもとに各自で資料を探し、考えをまとめ、また授業内で質疑応答をする、という作業を2、3度繰り返す。そのことを通じて得られた知見を、レポートにまとめて、また発表時に質疑応答する。こうして、自分で考え、受講者で共有し、さらに課題を深めるという授業を行っている。
- ・授業記録ビデオ及び逐語記録を用いた授業分析（オンライン、オンデマンド方式による）
- ・マイクロティーチング
- ・全ての授業が実技であるため、どれもアクティブラーニングに該当する。
- ・実技実習
- ・自分の課題解決に向けて試行錯誤をする制作活動
- ・現場からのゲスト講師の招へいと、そのゲストの所属先へのボランティア活動の奨励・支援
- ・学生のコメントを無記名のテキストとして共有した。学生が他の学生に対して問い合わせ、その問い合わせに対する返答も受け付け、無記名のテキストとして共有した。
- ・個々の学生が自分で調べてワークシートに記入。後日フィードバックと解説をした。
- ・課題提示による個人活動（運動）

問5 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態を教えてください。（複数回答可）



選択肢	回答数
①電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業	13
②e-learningシステムを活用した授業	70
③ICT機器の効果的活用をした授業	97
④その他	8

問5 ④その他

- ・ Teams を利用し、同時双方向のチャットによるグループ協議
- ・ Zoom でグループセッションに分割した話し合いを取り入れた授業
- ・ Zoom/LINE/Teams
- ・ 学生同士の Teams を用いたオンライン討論
- ・ PowerPoint による動画作成
- ・ Zoom を使用した双方型ツール（チャット、反応機能を利用した）
- ・ Zoom のブレイクアウトルームを活用
- ・ NHK for school の活用
- ・ 住宅の見取り図の製作で無料のソフトを使用して、それで学生さんに見取り図を提出してもらった。
- ・ 無料のC A Dを使用してその使い方を説明して、面白い教材を製作して提出してもらった。
- ・ エクセルのV B Aを使用して、ゲーム的なものを製作して提出してもらった。

問6 AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか。（自由記述）

問6：AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか①

- ・少人数の場合はTeamsで顔が見えるようにしてディスカッションを行った
- ・ブレイクアウトルームの使用 ・他国・他国からの参加者との交流（教師/元留学生）
- ・学生が、じっくりと課題にとりくめるよう、こちらから提示する資料を、わかりやすく、見やすく編集しなおした。また、各課題が多すぎないよう、授業者自身が受講者になったつもりで、「所要時間」を考慮しつつ出題した。
- ・対面の時と課題数は同じにする ・まなびネット上で対論できるようにした
- ・30分理論と実践の両面からの説明ビデオを視聴後、各自が実際の授業記録ビデオを見て授業分析を行うようにさせた
- ・Teamsを活用しグループでのディスカッションが可能なようにした
- ・Zoomのブレイクアウトルームを活用したり、学生がチームとしてプリントを作成したり工夫した
- ・学力格差をなくすためのAL授業の活用 ・学生のプレゼンや検討を取り入れた
- ・教員の話が長くなると集中力が欠けやすくなるため、映像やエクササイズを入れた
- ・学生が作成した問題を互いに解いたり、本の紹介をし合ったりという活動を取り入れた
- ・オンラインではあらかじめ課題を示しておき、授業中はディスカッション中心にした（少人数、他の授業とのかね合いから、問題ない授業のときにオンライン）
- ・Zoomを活用したグループディスカッション、グループワーク
- ・NHK for schoolの動画の活用 ・対話的な学びができるようにした
- ・まなびネットの「フォーラム」を開いて議論を行った
- ・Zoomによる授業の中でグループ討議、学生同士の意見交換
- ・動画の作成、Teams Zoomによる対面・ディスカッション・発表、リアクションペーパーの提出とその共有
- ・受講生からの個別質問をなるべく全体共有できるように授業内容に取りこむようにした
- ・調べる学習形態 ・資料を基に自らが課題発見し、解決する行程を考えた
- ・授業の感想・意見を毎回提出してもらい、次回の受講生に公開し、さらに意見をもらうなどのやりとりを多く行った
- ・課題を動画ファイルで提出させる。互いに他の受講生の動画を「褒める」視点からコメントをつける。
自分の動画に付けられたコメントを踏まえて、「褒める」ことの大切さについてレポートを書いて提出させる
- ・問題解決型学習、体験学習、調査学習ができるだけ取り入れる工夫をしました
- ・ブレイクアウトルームの活用、Teams共同ノートの活用
- ・対面授業の資料の事前配布と予習指示（対面授業時間を短くするため）
- ・Lineのような小回りの利く連絡方法で日時を相談してから、同時双方向型授業をした。
- ・学生間、学生と教員間のコミュニケーションがとれるようにすること。学びネットのフォーラム、オンライン発表（オンデマンド）、コメント等を利用した。
- ・学生に音声ファイルを提出させ、発音をチェックした（ドイツ語）

問6：AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか②

- ・課題や質問へのフィードバックを頻繁に行った。また、スライド（パワーポイント）の読み易さ・視覚的な効果を工夫した。
- ・ティームズを活用した双方向授業（学生のマイクロティーチングをビデオにしてupするetc.）、グループワーク、You Tube活用etc.
- ・飛沫感染を避けるため、学生同士の近距離のディスカッションを避けた
- ・Zoomでペアワークをするようにしました
- ・他者の課題の取り組みに対して、まなびネット上で、フォーラムを通して議論させました
- ・ブレイクアウトルームでの議論 ・相互評価等を取り入れた
- ・対面授業の資料の事前配布と予習指示（対面授業時間を短くするため）
- ・講義で話すようなスピードで動画の文字がスクロールするようにした。
- ・オンデマンドであっても、課題対象へのモチベーションを上げるような動画を作成した
- ・主体的・対話的で深い学びを学生に体験させられるように、グループワークの課題等を工夫した。
- ・従来パワーポイントを使った発表形式で実施していた内容を、動画（ナレーション込）による発表に置き換えた。従来オンサイトで実施していたグループディスカッション、グループでの演者への取り組みをwebexを使ったオンライン（少人数グループ、ブレイクアウトルーム）形式に置き換えた。
- ・ジグソー学習を取り入れ、ハイフレックスで個人-協同をつかいわけた
- ・今年は特にしていない ・相互評価
- ・動画利用、難易度調整を兼ねた学生からのフィードバック利用
- ・科目において重要で本質的な問を含む課題を提示して、成果物に対して相互評価を実施する
- ・まなびネットのフォーラムを使用し、対話型になるようにした
- ・家で行える範囲で作業や調査を行う。
- ・課題に関わる資料の工夫、考えの交流の設定などを行った。
- ・まなびネットを活用し、アンケート機能など（小テストなど）を利用して授業への参加状況を把握した。
- ・動画作成に多大な時間を費やした ・Dropbox, paperによる文書等の共有かつ共同編集
- ・毎回レポートを書かせ、毎回フィードバックする
- ・学生自らが解決していく授業展開etc. ・課題の説明を行う
- ・希望者に対して補てん授業を行った
- ・Zoomを用い、教材を共有（双方向） ・一部反転授業を取り入れた
- ・学生の作品を相互評価する、学生の意見をもとに意見を比較しながら授業進行する
- ・グループラインを用い、互いの提出課題を見て、相互評価などができるようにした
- ・フィードバックを適切に行なった
- ・資料を基に自らが課題発見し、解決する行程を考えた
- ・コミュニケーションの科目だったので、できるだけ多くのネイティブの英語（CD由来）を繰り返し聞くよう促した。

問6：AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか③

- ・英文を読み答える際、本文を適用した回答を良しとせず、自分の考えた英語による自分の考えを述べるよう示唆した。またリモートにおいてはオンラインで実際に英語を発する時間、話し合う時間も設けた。
- ・意見、感想、質問が出されるのを待つのでなく、教員側から提出を求め、ディスカッションのきっかけとしようと試みた（今年度の遠隔授業では、うまく機能させることができなかった）。
- ・毎回、個別にかなり細かくフィードバックした。
- ・授業資料は音声付きパワーポイントを用いた。各回の宿題として、自分の生活と関連づけて考えさせる課題を課した。多様な考えを知って、再度自分の考えを深めてもらう目的で、何人かの記述を紹介する回もあった。
- ・課題を通して講義で学んだ具体例や性質の一般化がどうなるかを考えさせる
- ・遠隔授業では、学生の意見交換が直接できないので、同テーマに関する授業を複数回に分け、お互いの意見をこちらで集約して記載し、その内容についてさらに考えることができるようしました。対面授業を数回実施したので、基本的には遠隔授業で各自考えたりまとめた内容を、対面授業で参加型学習のいろいろな手法を用いたグループワークと全体での共有を通して深めました。
- ・本来の授業ならば、ペアワークやグループワークなどを実施するのですが、オンデマンド型の遠隔授業であつたため、対面でのそれらの活動はできませんでした。それで、質問事項があった場合に、できるだけそれを共有し、解答提示の折に解説するようにしました。
- ・事前準備（講義の目的を明確化）と環境づくり（質問しやすさ、議論のしやすさ）。教員からのフィードバック（質問に答える、課題に対して良かった点と改善点）を逐次、綿密に行い、全体での共有を図ること。雑談的な学び。
- ・遠隔授業での資料だけでは理解が難しかった部分は学生自身で調べて課題を克服するようにした。自分で調べる重要性を学ぶ場となるようにした。
- ・学生が身近な地域において教材開発を行い、その成果を発表し、感想交流を行った。また模擬授業案を作成し、学生同士が検討した意見を改善に生かした。
- ・ムードルの「ワークショップ」を利用しました。ミニレポートや最終レポートの下書きを学生間で読み合い、評価、コメント（アドバイスを含む）をし合いました。
- ・遠隔授業を1回実施しましたが、画面共有機能がとても役に立ちました。
- ・必要な教材をあらかじめ配布しました。
- ・本来は対面授業内でのグループディスカッション等を予定していたが、遠隔授業となつたため、リアクションペーパーの紹介と回答をより丁寧に行い、学生と双方向で学びを深めることを心がけた。
- ・教員ではなく学生の方から問題を設定するようにし、解答も学生側からとしている。教員は誤りがあったときのみ助言している。
- ・令和2年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、1科目を除くすべての授業を遠隔で実施。遠隔授業のみでのALは、オンデマンド型のため、自学自習を基本とし、ネット上の参考資料を数多く紹介。ハイブリッド型の授業のみ、まなびネット上に授業課題を提示し、あらかじめ各自で課題に取り組み、対面授業時にグループディスカッションするという反転授業を実施。

問6：AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか④

- ・学生の自主的な調査・研究を促進できるように、課題を具体的に設定した。その課題に対して、遠隔授業であっても学生同士が相互に学び合えるように、レポートへのフィードバックと他学生への紹介（学生本人の承諾を得て）等を多く実施した。学生は、同じ授業を受ける仲間の考え方や意見を知ることに高い関心を示した。そこから自身の思考を深めてくれたらよいと思う。
- ・毎回、1回の授業につき1~4個の課題を提示し、それらの課題のすべて、ないし一部にたいして提出される学生のレポート内容をまとめ（教員のコメントも付して）、全員が読めるようにした。それにより、遠隔授業とはいえ、受講生同士の意見の交流が可能となるように努めた。
- ・教員が模擬発表を行い、どのように問題点を設定するか、例を示した。
- ・各自に提出してもらったWordや動画を、教員が集約し、受講者で共有した。また、動画については、学びネットのフォーラム機能を使用し、コメントを書き込むという鑑賞の形態をとった。
- ・今年度は遠隔だったので、毎回学生からのリアクションをなるべく多く紹介した。学生からは、自分の意見がのっていると嬉しいと好評だった。
- ・ALのためのグループを構成し、グループごとにZOOMやSNSを利用して、学習指導案の作成や与えられた課題等に関する意見交換等を実施する。
- ・学生対教員が1対1の関係ではなく、学生が他の学生の考えも共有できるように、前回に送られた学生の考えをできるだけ多く次回の授業内容に載せて、閲覧できるようにした。
- ・学生からまなびネットを通じて提出された学習指導案やレポートに対しては、その都度、メール機能を使ってコメントを全員に送った。また、学生からの質問や疑問等は、やはりメールによってやり取りをした。
- ・健康・体力の維持・向上を目指させるために、1回の授業を90分で行うのではなく、運動継続をさせるために、1回の課題行動（運動）を15~20分で行えるようにし、1週間の間に5回行うようにさせた。なお、1年間全てがオンデマンド授業であったため、学生同士の横のつながりの授業形態をできなかった。
- ・ユーチューブを活用して、実際の幼児の姿を具体的にイメージできるようにした。
- ・受講生の考える力を育てるように留意した。
- ・遠隔授業（オンディマンド型）では、グループディスカッションやグループワーク、調査活動等が実践しにくい面があった。やむを得ないと諦めずに、まなびネットの課題提出ファイルの中に、優秀な指導案例をいくつか載せて、それらを見て参考にするように促した。4月からの新年度の遠隔授業も同様の試みを実践したい。
- ・Zoomのブレイクアウトルームで、小グループによるグループワークや対話の場を設けた。
- ・授業者がICT機器を活用して、各自のテーマ設定に基づいて、教材や作品の作成を行うというもの
- ・学生が、いろいろな学生と話し合えるよう座席を毎時間替えた。前後も移動させるようにして、15回分の席を考え、指定した。毎時間最後のまとめ部分をクイズ的にして資料を読ませた後、発表をさせ、解答をした。
- ・パワーポイントでビデオを作つて講義を行います。また、リアルタイムのように、講義の途中で質問したりして学生はメールやラインで回答します。

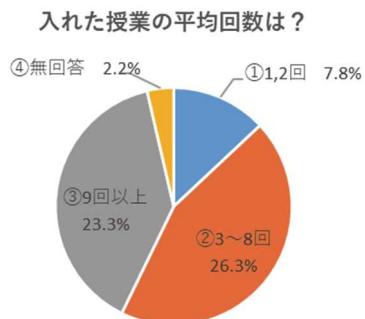
問6：AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか⑥

- ・学生から授業に関する感想、意見を提出してもらい、翌週に共有、さらに翌週にその感想を提出させた。
学生からは、友達の意見が知れて勉強になったという感想もあった。
- ・Microsoft teamsによるオンライン授業の際に、グループごとにチャネルをつくり、チャネル内でグループごとにディスカッションを行った。そこで出てきた意見をグループ代表がチーム内で発表し、情報の共有化を行った。
- ・講義をただ見るのではなく、web会議システムの小集団に分かれる機能を活用し、学生5人程度で話し合うことのできる機会を作った。また、講義の一部を質疑応答の時間とし、直接学生が講師に質問できるような形式を作った。その際、ホワイトボード機能を用いて質問と答えを学生と共有できるようにした。
- ・事例を用いて、各自がどのようにそれらの事例を見立て関わるかということをグループで話し合い、それらのグループ内の意見を全体で発表し共有するようにした。各自の感想には、自分では思ってもみないような発想や関わり方があることが学べたと高評価であった。また、グループ内での話し合いを通して、チーム医療やチーム学校内での自らが果たす役割についても各個人で体験し、それによってどういったグループ（チーム）が出来上がるのかを体験してもらった。
- ・2進法などの理解において、工作物を提示することで、その原理を深く理解するように心がけている。
- ・どうして、分数割る分数は反転して掛けるのかなどの疑問をあげて単位変換や式の移項をどう教えるべきかを考えさせる。
- ・エクセルVBAを利用して簡単なゲームを作りそれを参考に自分で考えたゲームを作り提出する。
- ・家の見取りを考える中で、自分の家族を配慮して無料のソフトを使用して自分の理想の間取りを考えることにより、家族とはを考えて提出とした。
- ・戸籍制度などのプレゼンの提出を行い、その後の一度の対面授業にて発表して後日、みんなのプレゼンを聞いての自分の意見などを提出してもらった。
- ・1度の対面授業において、教材を色々製作して、自分が楽しさを体験することにより、将来教員となつたときに、手元にある教材で授業ができる。
- ・ビデオでは私の顔を映し出し、話しかけるようなビデオの制作を心がけました。また、ソフトの使用法や工作では作り方を丁寧に説明したつもりである。
- ・パワーポイントを使用し、音声と画像により授業の効果を意識しました。
- ・リコーダー独奏の発表会を対面式の授業では行わず、各自で演奏を撮影し、動画配信にした。
- ・学生自らが課題に気づき、その解決策を模索していくように工夫した。
- ・グループワークの際は検討課題をいくつか設定して時間を区切ることで、話し合いの方向性を定めて時間を無駄にしないようにしている。
- ・オンライン授業では、リアクションをリアルタイムに入力し、その回、次回で共有できるように心がけた。
- ・学生が課題に対してレポートを提出し、その内容を次の授業で示す。その内容を読みさらに考察を加え、考えを深めていく。学生が提出したレポートには必ず教官がコメントを記して学生に返す。
- ・分かりやすいワークシートの作成、毎時間振り返りの実施による疑問、戸惑いの吸い上げ、便りの発行で質問への回答、評価のフィードバック、他学生の資料の提示

問8～問11 大学院授業についての質問

問8 同一科目の全授業回数（16回）の内、4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の平均回数はどの程度ですか？

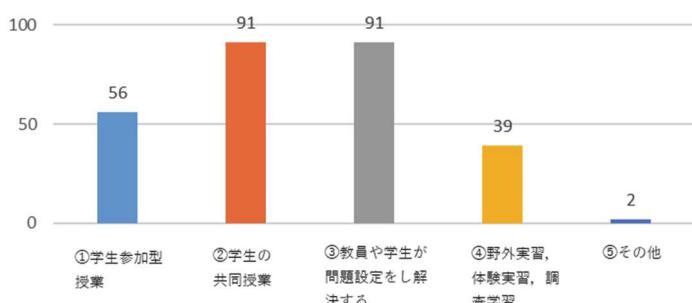
問8 担当している全科目の中で、ALの要素を取り入れた授業の平均回数は？



選択肢	%	回答数
①1,2回	7.8%	18
②3～8回	26.3%	61
③9回以上	23.3%	54
④無回答	2.2%	5

問9 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、取り入れている授業形態を教えてください。（複数回答可）

問9 授業の中でALの要素を取り入れている授業形態を教えてください。（複数回答可）

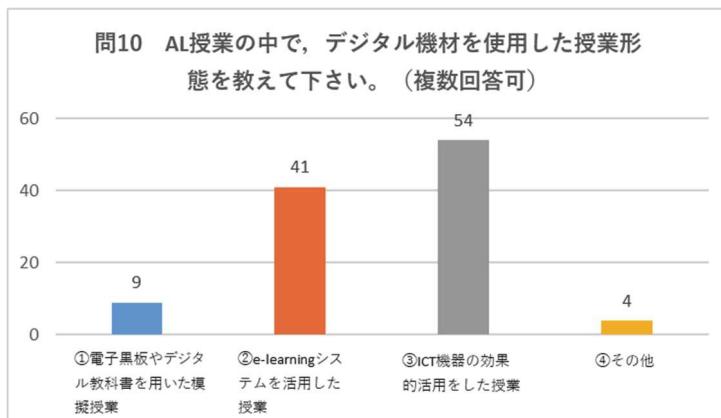


選択肢	回答数
①学生参加型授業	56
②学生の共同授業	91
③教員や学生が問題設定をし解決する	91
④野外実習、体験実習、調査学習	39
⑤その他	2

問9 ⑤その他

- ・ ABD（アクティブラーニング）を用いたグループごとの論文講読と、テーマに基づく議論後、ワールドカフェを用いた全体交流を図る授業
- ・ 実技実習
- ・ 3分プレゼンテーションを行ってもらい、相互評価してもらった（Zoom利用）

問10 4つの視点のうち少なくとも1つを含むAL授業の中で、デジタル機材を使用した授業形態を教えてください。（複数回答可）



選択肢	回答数
①電子黒板やデジタル教科書を用いた模擬授業	9
②e-learningシステムを活用した授業	41
③ICT機器の効果的活用をした授業	54
④その他	4

問10 ④その他

- Teams を利用し、同時双方向のグループごとのチャットによる研究協議
- マネキン型シミュレータ
- Zoom でグループセッションに分割した話し合いを取り入れた授業
- Zoom 使用で一部ハイブリッドで行った
- オンライン授業を ZOOM を利用して行いましたが、画面共有時に、ドキュメントカメラを利用し、実際の作業の様子を見もらったりしました。

問11 AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか。<自由記述>

問11 AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか①

- 少人数の場合は Teams で顔が見えるようにしてディスカッションを行った
- 複数教員とのリレー授業だったので、後半を引き継ぐ者として、前半の流れを崩さぬよう、とくに画面越しでの討議では、受講者（留学生）に親しみやすい雰囲気を作るよう努めた。
- 学部と同じ（対面の時と課題数は同じにする）
- 40分理論的説明を行うビデオ配信を実施した後、時間を定めて Teams のチームに参加させ、グループごとにチャットによる討論を行わせた。
- リアルタイム講義の中で対話の時間を取り入れ、お互い議論する時間をもった。
- 学力格差をなくすためのAL授業の活用

問11 AL授業（遠隔授業）でどのような工夫をされましたか②

- ・受け身的面接となりやすいため、反転学習を導入した
- ・学びネット上で討論できるようにした
- ・事例検討では倫理面に問題が生じない事例にしぼって行なった
- ・学部の授業同様、院生の討論を数多くとり入れた
- ・NHK for school の動画の活用 ・大学院生同士の討議、意見交換
- ・Teams Zoom による討論、発表 ・調べる学習形態
- ・受講者全員が発言できるようにZoomを活用した（前期）
- ・大学院の深い学びができるようにした
- ・学生によるプレゼンテーション授業
- ・Lineのような小回りの利く連絡方法で日時を相談してから、同時双方向型授業をした
- ・学生、教員間のコミュニケーションをうまくとれる工夫。
- ・自分で参考文献（サイト）を探し、その内容について発表させた。
- ・対面と遠隔のメリットを活かした（ゼミ授業 etc.）
- ・他者の課題の取り組みに対して、まなびネット上で、フォーラムを通して議論させました
- ・Zoomでの議論、VTRの共有、ゲストの参加など
- ・簡単な問題提示から出発して、課題解決の中から受講生が新たに見つけた問題を次なる素材として提示し、課題解決をする活動を遠隔であってもOneNoteを利用して行った
- ・相互評価などを取り入れた ・動画利用、ICTツール利用
- ・学びネットのフォーラム機能を使って学生同士の対話的な学びができるようにした
- ・まなびネットのワークショップ機能を用いた相互評価
- ・自己課題に基づく学校ベースでの課題解決活動をとり入れるなど工夫した。
- ・peer review ・実施していない
- ・Dropbox, paperによる文書等の共有かつ共同編集
- ・院生自らが問題解決していくような授業展開
- ・一部ハイブリッド授業を行った
- ・Zoomを用い、教材を共有（双方向）
- ・IT技術を相互に教え合いながら演習する。レポート等ファイルの共有、共同編集
- ・グループラインを用い、互いの提出課題を見て個々の課題が見える形とした
- ・フィードバックを適切に行った
- ・ひとつの課題に対して、授業で継続的に扱うことで、学生間の情報の共有と、さらに各自の考えが深まるように課題を設定した。
- ・テーマを設定し、学生による提案資料の作成を課題とすることで主体的な学びにつなげた。
- ・問10と同じです。（オンライン授業をZOOMを利用して行いましたが、画面共有時に、ドキュメントカメラを利用し、実際の作業の様子を見てもらったりしました。）
- ・一方的にならないように双方向的に実施しました